



こしだ 浩矢 県政レポート

略歴 ●昭和43年6月18日生 ●平成3年 慶應義塾大学法学部卒 ●平成10年 神戸大学大学院経営学専攻 修士課程修了
●昭和62年 兵庫県立長田高等学校卒 ●平成3年 JR西日本入社 ●平成23年 兵庫県議会議員初当選(現在4期目)

地域サポート実績

①長田小学校前バス停付近に横断歩道と信号が設置されます!



長田小学校前のバス停付近では、歩行者が車にはねられる事故が多発しており、10年以上前から信号機設置の要望がありました。近くに歩道橋があるため県警は設置に難色を示していましたが、高齢者が歩道橋を渡れないことから信号設置の訴えを続けた結果、この度横断歩道と歩行者用信号が令和7年2月までに設置されることになりました。

②ひよどり展望公園への遊歩道を舗装

ひよどり展望公園への遊歩道が途中で舗装されていない状況でしたが、毎日ご利用している方からご要望いただき、神戸市と県の保安林管理の調整を行い、コンクリートによる舗装が実現しました。



③駒ヶ林神社前と駒ヶ林漁港の間に横断歩道を設置

駒ヶ林南線は、沿線に物流センターや工場等があり、車やトラックの通行が多く、漁港に向かう歩行者がはねられる事故が発生し、危険な状況でした。県警に申入れを行い、横断歩道が設置されました。



④上池田2丁目・3丁目間の道路 交差点の明示

西代中学北側の幅員が細い道路では、住宅街から出てくる車両や歩行者と衝突しそうな事象が発生していることから対策を要望され、交差点を明示する白線を引いて注意喚起を促すように改善しました。



⑤桜川町公園の防護ネットの追加

桜川町公園で野球をしていたボールが、家屋の窓ガラスに直撃して割れてしまう事象が発生し、安全対策の要望を受けました。金網が一部無い部分に追加の防護ネットが設置されました。



⑥大日丘町 側溝から繁茂している樹木等の伐採

側溝から樹木が繁茂していて、素人では伐採することが困難な状況で困っていると要望を受け、神戸市に伐採を依頼し、実行されました。



⑦横断歩道の白線引き直し(二番町1丁目交差点など)

横断歩道の白線が消えていて危険とのお声を方々で伺っていました。県警や知事に何度も申し入れてきましたが、今年度秋までに、集中的に白線の塗り直しが実施され、安全な横断歩道に改善されました。



⑧大日丘町 側溝上穴があいたアスファルト修復

側溝上を舗装しているアスファルトに穴があいて陥没しそうで危険との連絡を受け、神戸市に依頼して修繕を実施しました。



来年度予算事業に対する提案・要望活動

来年度予算編成に関して、12月3日に公明党会派として齋藤知事に政策提案を行いました。主な提案・要望内容について、解説します。



1 高等教育の支援＝県立大学無償化以外の支援も必要!

県立2大学(兵庫県立大学、芸術文化観光専門職大学)において、今年度から県内在住者の入学金と授業料を無償化する事業を開始しました。在学生と新入生の支援格差を考慮し、段階的に実施され、令和8年入学の新入生からは入学金と授業料が完全無償(合計2,425,200円)となる予定です。必要な予算額は年間22.4億円です。

化の恩恵を受けられない大学や専門学校に進学する学生への支援策が必要だと訴えています。平等性の観点から、学生の経済的負担軽減のための支援事業を求めています。

<県立大学の入学金と授業料>

入学金	282,000円
授業料	535,800円/年
4年間計	2,425,200円



公明党は、県内に無償の大学があることを評価しつつ、県立大学に進学する県内在住の学生が全体の約2%であることから、無償

2 県庁舎等の再整備の方針とスケジュールの明確化を!

県庁舎の1号館、2号館、議場棟は、南海トラフ巨大地震に対する耐震性がなく、建替再整備が検討されてきました。井戸知事時代の基本構想では、全職員分のスペースを確保し、現地建替を行い、にぎわいと活力の創出や、周辺エリアの整備、回遊性強化を目指し、防災拠点としての高い耐震性能を持った庁舎の整備と、観光・宿泊施設を誘致し、にぎわいのある空間を創出する計画で、事業費の想定は約700億円でした。

フ巨大地震対応の拠点としての重要性の指摘や、他府県からの応援職員が派遣される際に県職員が在宅勤務でよいのかといった問題が浮上しました。

齋藤知事が就任後、この計画は凍結され、テレワークを取り入れた4割出勤の働き方改革により、必要スペースの圧縮を図り、新しい庁舎を建設しない方向性が打ち出されました。しかし、4割出勤には業務効率の低下や、教育指導面等での課題があり、南海トラ

齋藤知事は先の知事選挙において「コンパクトな県庁舎再整備」を公約に掲げましたが、コスト論中心ではなく、巨大地震発生時の危機に対応するためにも、県政の拠点としての必要な機能性と費用対効果を両立させる方向で、早急にスケジュールを明確にして再整備を推進するように求めています。



来年度予算事業に対する提案・要望活動

3 带状疱疹ワクチン接種費補助事業の拡充を!

今年度から公明党の提案で実施されている兵庫県带状疱疹ワクチンの接種補助事業は、県内40市町で実施され約2万人(10月末現在)が利用し好評です。今年7月に厚生労働省は、接種費用を公費で補助する「定期接種」に含める方針を決定しました。今後、専門家会議で対象年齢などを議論し、正式に決定しますが、定期接種開始までの空白期間を防ぐため、現行事業の継続と補助要件の拡充を提案しています。

带状疱疹とは?

- 带状疱疹は、日本人9割の体内に残っている水ぼうそうのウイルスが原因で発症します。
- 50歳代から発症率が高くなり70歳代がピークで、80歳までに3人に1人が带状疱疹を発症します。
- 治療が遅れると後遺症が残るケースがあり、目の近くにでると視力障害や失明したり、耳にでると顔面神経麻痺などが起こり、生活の質が大きく低がるため、予防や早期治療が重要です。

兵庫県 带状疱疹ワクチン接種補助事業の概要

- ①対象者:接種日現在で満50歳以上の方
- ②対象ワクチン:生ワクチン、不活化ワクチン
- ③補助金額:4,000円(上限)1人1回限り

国の定期接種では、65歳以上の方が5年ごとに接種を受けられるように検討されていますが、県の現行の対象は50歳以上です。また、補助金額4000円は、生ワクチンの接種費用の半額程度ですが、不活化ワクチンは1回約2万円を2回接種する必要があるため、補助額の拡充が必要と考えています。



4 フリースクール等に通う児童生徒への経済的支援を!

県議会公明党は、不登校対策に力を入れており、今年度は様々な取組を実現しました。具体的には、学校内にサポートルームを設置するために「不登校児童生徒支援員」を配置し、不登校児童生徒の学習支援を行う「ハートフレンド人材バンク」を創設しました。不登校児童生徒数が過去最多を更新する中、多くの児童生徒がフリースクールなどの民間施設に通っています。また、不登校児童生徒を持つ保護者の約5人に1人が離職を余儀なくされています。この状況を踏まえ、フリースクールなどの民間施設に通う家庭に対

して通学費や給食費、授業料などの経済的支援を行う必要があると訴えています。さらに、民間施設での多様な学びの情報が、不登校児童生徒の家庭に適切に届くように情報発信を行うことも重要だと考え、教育委員会に対して提言しています。



国の来年度予算編成に対する要望活動

11月28日に県議会公明党議員団として、霞ヶ関の各省庁を訪問し、来年度予算編成に反映してほしい政策要望活動を行いました。

国土交通省では、石破内閣で初入閣した中野洋昌大臣(兵庫8区選出)に対し、県内道路ネットワークのミッシングリンクの早期解消や、地域交通の維持・再生に必要な財政支援、防災・減災、国土強靭化対策の着実な推進、公共工事設計労務単価の改善を要望しました。

内閣府特命担当(防災、海洋政策)の坂井学大臣に対しては、能登半島地震の課題を踏まえた防災、減災対策を進めることを求

め、ドローンの活用、防災DXの推進、指定避難所(学校等)へのエアコン設置等の推進を要望しました。

また、内閣府防災庁設置準備担当の赤澤亮正大臣あてに、防災庁の創設にあたっては、防災関連機関が集積している兵庫県への拠点設置を要望しました。

その他、総務省、厚生労働省、農林水産省を訪問して要望・提案を行いました。

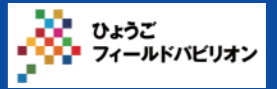


中野洋昌国土交通大臣に要望



坂井学内閣府特命大臣に要望

総務常任委員会での調査活動



今年度は総務常任委員会に所属しています。委員会の視察調査では、来年の大阪・関西万博に向けた兵庫県の取り組みである「ひょうごフィールドパビリオン」の調査等を行なっています。印象的なフィールドパビリオンをピックアップしてご紹介します。

刀鍛冶が教えてくれる「小刀づくり体験」(相生市)

小刀づくりをとおして、昔ながらの「鍛冶仕事」を体験できるプログラムです。刀鍛冶を実際に体験できる場所は全国的にも非常に珍しいです。

公共交通のアクセスは、相生駅からバス&徒歩になりますが、バス停から日本の田舎の道の散歩を楽しみながら、海外からもこの貴重な体験を求めて多くの外国人が訪れるそうです。



デザイナーtamaki niimeによる播州織のものづくり体験(西脇市)

播州織の魅力を感じられ、自社内で生地づくりから作品になるまでの工程を全て見ることができるLabの見学や、縫製加工の「体験型」ワークショップ(ショールの縫製・カット・タグ付け)に参加できます。

世界の有名ブランドに生地素材を提供してきた播州織は、大量生産から小ロット多品種化、最終製品生産の高付加価値化への転換を進めてきました。玉木新雄氏はその第一人者で、新しいブランドを立ち上げ、綿花の栽培から、デザイン、機織り、製品化、販売まで一貫生産し、一点モノのモノづくりで世界展開を図っています。



奥播磨かかしの里(姫路市安富町関地区)

関集落の住民は10人に対し、かかしは130体もあります。かかしの制作者に案内してもらい、作り手の思いに触れ、訪問者も野良着に扮して「かかしの里」を巡り、かかしと一緒に記念撮影や山里の暮らしを体験するプログラムが用意されています。インスタ映えること間違いなしです。

ひょうごフィールドパビリオンは、200を超えるプログラムが認定されています。詳しくはホームページをご覧ください。



兵庫を知るトピックス

クイズ

兵庫県の北播磨地域の地場産業の製品で、全国シェアが83.5%と圧倒的な製品は何でしょう?

北播磨の釣り針づくりは、江戸時代の天保年間に土佐から製造技術が持ち帰られ、地域に広まりました。釣り針の原材料である鋼の切断、針先を尖らせる尖頭、針を曲げる作業や焼き入れ工程などの専門業者が地域内に集積しており、多様な釣り針製造が可能となりました。これが北播磨の釣り針が圧倒的なシェアを持つ理由です。

地場産業の競争力は地域に根ざした生産力が基盤です。地元長田区のケミカルシューズ産業も同様に、街全体が一つの工場となって競争力を発揮してきました。

こうした地場産業の強みを強化するために、県としても支援することが重要です。

(ケミカルシューズ生産も日本一を誇り全国シェアは24%です。令和3年データ)

